

地域医療

地域医療研修について

近年、医療は専門分化が著しく、若手医師の専門医志向も強い傾向にある。これまで医師の臨床研修は、大学などの大病院で、高度専門医療に関することを中心に行われており、患者とのコミュニケーションを大切にした全人的な幅広い診療能力の欠如が生じる結果となっている。今後の医療では、少子高齢化、社会の複雑化・多様化を背景に、患者の全人的な診療を行うため、多様な診療科の経験と地域医療などの素養を身につけることが、医師にとって不可欠となってきている。

卒後研修は医師としての第一歩であり、その後の医師としての生涯の発展に大きな影響を及ぼすものである。そのため高度専門医療に対する学術的興味を持つとともに、プライマリ・ケア、へき地医療の重要性を臨床研修の中で体得する必要がある。

研修目的

地域医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために

- 1) 患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療（在宅医療を含む）について理解し、実践する。
- 2) 診療所の役割（病診連携への理解を含む）について理解し、実践する。
- 3) へき地・離島医療について理解し、実践する。

研修施設

◇必修科目

1) 研修施設

下記のいずれかの施設で研修を行う。

施設名	所在地	連絡先
尾鷲総合病院	尾鷲市上野町5番25号	0597-22-3111
飯山赤十字病院	長野県飯山市大字飯山226-1	0269-62-4195

2) 研修期間

1ヶ月

◇選択科目

・ 研修施設・研修期間

下記から自由に研修施設を選択でき、期間も変更は可能である。

施設名	所在地	連絡先	基本的な期間
尾鷲総合病院	尾鷲市上野町5番25号	0597-22-3111	1ヶ月
飯山赤十字病院	長野県飯山市大字飯山226-1	0269-62-4195	1ヶ月
紀南病院	南牟婁郡御浜町大字阿田和4750	0597-92-1333	1ヶ月
鳥羽市立神島診療所	鳥羽市神島町85-2	0599-38-2033	2日間

具体的な研修内容については各病院別に示す。

尾鷲総合病院

研修施設

尾鷲総合病院

住所：三重県尾鷲市上野町5番25号（電話：0597-22-3111）

院長：小藪助成

臨床研修プログラム責任者：加藤弘幸

尾鷲総合病院が受託している介護連携老人病院・施設

研修期間

1ヶ月

研修目的

地域の中で保健・医療・福祉の連携を図って患者を支え、地域に根ざした医療の姿を体験することで、地域保健・医療を必要とする患者とその家族に対して全人的に対応できる能力を身につける。

研修内容

尾鷲総合病院の地域研修は1週間ずつで内科・外科・福祉（メディカルソーシャルワーカー）・協力開業医診療を予定しています。

内科では外来診療、救急診療、入院患者管理、透析患者管理等の研修を行います。

最近内科診療でも臓器別になる傾向がありますが、一人の患者全体を担当することにより全人的医療を実践することを学びます。

外科では主に救急診療、入院患者管理、手術の助手などを指導医・研修協力医の下で研修を行います。特に救急診療では急性腹症の診断手順や手術適応について、入院患者では術前検査や画像診断などについて学ぶことができます。

福祉部門ではメディカルソーシャルワーカーと共に患者の今後の生活支援の手段を考え問題解決の方法を学ぶことができます。

医師会の中で協力していただく開業医の先生と外来診療、訪問診療、加えて介護保険審査会の見学等、地域医療の現場を体験ができます。

尾鷲総合病院は紀北地区の一次から二次救急に365日対応しており、豊富な救急医療と地域医療を体験することができます。

研究会等

曜日	研修会等
毎月第2水曜日	紀北医師会カンファレンス
隔月第3木曜日	紀北医師会講演会
毎月最終火曜日	Metabolic Club
隔月第2木曜日	紀北紀南外科症例検討会

研修時間

8:30～17:15

スケジュール

	月	火	水	木	金	土・日
第1週	外科を中心とした外来、病棟、手術等					土曜・日当直
第2週	内科関係の診療所・外科関係の診療所 MSWとともに病診連携・福祉事業所との連携業務					
第3週 ～第4週	内科を中心とした外来、病棟、処置、透析等					日曜・日当直
その他		最終週 ・研修会	第2週 ・医局会と紀 北医師会カン ファレンス	第2週 ・紀北紀南外 科症例検討会 第3週 ・講演会		
	月3回程度の当直勤務					

当院の特徴的な取り組み

該当する医療圏には一般病床を有する病院が当院しかないため非常に地域と密接しており、患者のインフォームド・コンセントや地域の開業医との病診連携も重視しています。

当院では 24 のチームを有し、各チームは他職種で編成し、医療・サービス・知識の向上に取り組んでいます。その中でも NST（栄養サポートチーム）は院内の治療のみならず、療養には栄養管理は欠かせないことや医食同源の大切さを知っていただくために院内で他の医療関係者や福祉施設従事者などを対象にしたフォーラムの開催や、市内の施設にも出張講演に出かけています。

生活習慣病チームにおいては近年クローズアップされているメタボリックシンドロームの対策と解消の講演会を地元の尾鷲市や紀北町に出かけ、住民に講演を行っています。

更に尾鷲市が主催の健康祭りに医師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・看護師がスタッフとして参加し市民の健康管理も行っています。

宿泊施設

病院宿舍

※研修開始 1 週間前までに、来院日時の予定や質問などを下記まで電話かメールにて連絡して下さい。

※研修当日は午前 8 時に総務課（外来棟 4 F）にお越し下さい。

※研修の関係で不都合があればご相談下さい。

【連絡先】

尾鷲総合病院 総務課 徳井良成

電話：0597-22-3111

メール：owasehp@crocus.ocn.ne.jp

飯山赤十字病院

研修施設

飯山赤十字病院、飯山赤十字訪問看護ステーション
へき地診療所（野沢温泉村市川診療所）

住所：長野県飯山市大字飯山226-1（電話：0269-62-4195）
地域医療研修プログラム責任者：飯山赤十字病院 副院長 石坂 克彦

研修期間

1ヶ月

研修目的

地域医療を必要とする患者とその家族に対して、主に訪問診療をとおして全人的に対応する力を身につける。

研修目標

1) 一般目標

- (1) 在宅医療、当院においては多職種訪問チームによる在宅医療の現場を経験する。
- (2) 在宅ターミナルケアの現場を経験し、在宅ならではの「お見送り」を経験する。
- (3) へき地診療所の現場を経験する。

2) 行動目標

特定の医療現場での経験

- (1) 飯山赤十字病院、飯山赤十字訪問看護ステーション
 - ・ 対象人口約 4 万人の当院において、救急外来（夜間も含む）、総合診療外来、一般健診、乳児健診、妊婦検診、人間ドック、健康指導などに参加する。
 - ・ 当院の在宅医療、在宅ターミナルケアに参加する。
 - ・ 当院訪問看護ステーションを中心にした多職種訪問チームによる訪問診療に参加し、在宅医療におけるチーム医療の重要性を体験する。
- (2) へき地診療所（野沢温泉村市川診療所）
へき地における医療事情、診療所の役割を理解し診療する。

スケジュール

飯山赤十字病院、飯山赤十字訪問看護ステーション・へき地診療所・地域の診療所等、研修医の希望により、スケジュールを調整する。

	月	火	水	木	金	土・日
朝	ドック健診（10人前後）・訪問ミニカンファランス					自由時間 飯山を知ろう （観光や、地域のイベントに参加）
午前	訪問研修 訪問看護同行	訪問研修 訪問看護同行	訪問研修 訪問看護同行	訪問研修 訪問看護同行	訪問研修 訪問診察同行	
午後	訪問カンファ ランス	訪問研修 訪問看護同行	訪問研修 訪問診察同行	訪問研修 訪問看護同行	訪問研修 僻地診療所 訪問診察同行	
夕方		内科、外科合 同カンファラ ンス		内科カンファ ランス	一週間の振り 返り	

当院の特徴的な取り組み

1) 当院の多職種訪問チームによる訪問診療

多職種訪問チームによる訪問診療、在宅ターミナルケアの試み

- ・第42回、第47回 日本赤十字社医学会総会
- ・第18回日本在宅医療研究会
- ・第5回北信医学会 等で発表。

当院では平成12年10月より医師、看護師、理学・作業療法士、薬剤師、MSW による訪問チームを結成、訪問診療、在宅ターミナルケアを行ってきました。

- (1) 訪問チームは訪問医師1.5名（兼務）、訪問看護師7名（内1名は訪問看護認定看護師）、理学療法士2名（兼務）、作業療法士1名（兼務）、薬剤師2名（兼務）、MSW2名で構成しています。
- (2) すべての訪問患者さんの主治医には訪問医師があたり、医師、看護師、理学・作業療法士、薬剤師がセットで訪問しています。週一回のケア・カンファレンスには医師を始め訪問チームメンバー全員と院内の通所リハ介護士、外部事業所のケアマネージャー、介護士、ヘルパーなど在宅医療・介護に携わる全員が参加し、情報の共有化をはかっています。
- (3) 訪問看護は受持ち制で24時間365日対応、週1回～5回訪問しており、月に1～2回の主治医の訪問診察には受持ち看護師が必ず同行しています。理学・作業療法士による訪問は呼吸器リハを含め週1～3回で、ターミナルケアにも参加、また看護師との同行訪問によるOne-Upリハビリ、One-Up訪問看護も行っています。薬剤師による訪問は月に1～2回、服薬指導、副作用チェック、医師への処方助言とともに薬剤の宅配を行っています。
- (4) 平成12年10月から平成25年8月末までの訪問患者総数811名、死亡患者数597名、内在宅死亡患者数245名（在宅死亡率41.0%）、ターミナルケアを行った末期癌患者数234名、内在宅死亡患者数128名（在宅死亡率54.7%）。

- (5) 平成25年9月現在、訪問患者数82名、訪問診察89回/月、訪問看護342回/月、訪問リハビリ258回/月、訪問服薬指導84回/月でした。
- (6) 多職種訪問チームによる訪問診療の利点
- ① 外部事業所のメンバーを含めた訪問チーム全員によるケアカンファレンスを行っていることはもちろん、チーム全員がワンフロアにいること、主治医はすべて訪問医師であることからメンバー同士の連携は密で、情報の共有化が容易で皆同じ思いで患者に接することができます。病棟のナースステーションのイメージです。
 - ② 各職種あわせた全体の訪問回数が多く患者の状態把握、対応が迅速に行えます。
 - ③ 院内の元主治医、専門医、病棟との連携も良く急変時等の入退院に即対応できるなど、訪問診療、特に在宅ターミナルケアにおいて非常に有効です。
 - ④ 院外に自宅を病室とする100床の病棟があるイメージです。患者さん、介護者さんが安心して自宅療養ができ、ターミナルケアに充分対応できます。また、DPCによる在院日数の短縮への有効な対応策でもあります。
 - ⑤ 栄養士による訪問を含む院内NSTの在宅への拡大、口腔ケアの充実、在宅呼吸管理の強化等による在宅死亡率のさらなる向上が今後の課題です。
- 2) 臨床カンファレンスの開催
救急隊員、地域の介護関係者、当院職員を対象にしたカンファレンスを行っています。機会があれば参加しましょう。
- 3) 出前講座、地域住民への健康講演会
当院の医師、看護師、理学療法士などが地域へ出かけてお話しする出前講座。市町村などが主催する健康教室での講演などがあります。地域の方の生の声を聴ける機会ですので参加しましょう。
- 4) 介護認定審査会
広域行政組合で行われている介護認定審査会に委員を派遣していますので、介護度の認定がどう行われているか見学でき、介護保険についても学べます。

宿泊施設

研修医宿舎（テレビ、冷蔵庫、寝具、調理器具、食器つき、冷暖房完備）を用意します。
※研修開始2週間前までに、来院日時の予定や質問等を下記まで電話かメールにて連絡して下さい。

【連絡先】

飯山赤十字病院 庶務課 小林
メール：syomu@iiyama.jrc.or.jp
電話：0269(62)4195 内線 2252

紀南病院

研修施設

紀南病院

住所：三重県南牟婁郡御浜町大字阿田和4750（電話：05979-2-1333）

院長：須崎 真

研修期間

1ヵ月～3ヵ月（希望によりそれ以上も可能）

研修目的

- 1) 地域を知る
- 2) 地域に生きる人を知る
- 3) 地域の医療を知る

研修内容

紀南病院での地域医療研修は、指導医のもと実際に入院患者を受け持ち、診療、管理を行うことが中心です。外来診療や救急患者の対応、希望に応じて消化器内視鏡、超音波検査、グラム染色検査等の研修も可能です。

院外研修では、地域の診療所での研修や無医地区への巡回診療、高齢者の健康相談、消防救急研修、訪問看護研修などを行います。その他、受け持ち患者の故郷を訪ねて患者の生活背景や文化を知る故郷訪問プログラムや、定期的に行われる紀南地域の医療についてみんなで話会「タウンミーティング」への参加など、地域と密着して、地域の皆さんと共に研修を行います。

研修時間

8:30～17:15

スケジュール例

研修医自身の自由選択が可能

	月	火	水	木	金	土・日
朝	カンファレンス（新入院患者・退院患者紹介）					自由 地域を知る (観光や、地域のイベントに参加)
午前	病棟・救急 研修	訪問看護 研修	地域診療所 研修	病棟・救急 研修	病棟・救急 研修	
午後	病棟・救急 研修	病棟研修	地域診療所 研修	故郷訪問	病棟・救急 研修	
夕方		症例カンファレンス	救急研修	タウンミー ティング等	一週間の振り返り(ランチオン ミーティング)	

※希望により、消化器内視鏡検査、超音波検査実習、グラム染色研修が可能

当院の特徴的な取り組み

- ・ サークルやイベント活動

サークル活動として、サッカー、バスケット、陸上、スキューバダイビング、熊野古道散策会、コーラスなどがあります。イベントとしては、病院前七里御浜海岸での地引網大会や、バーベキュー大会、院内コンサートやボーリング大会、地域のイベント駅伝大会の参加など一年を通じてたくさん企画しております。積極的に参加し、職員や地域住民と交流や親睦を深めて下さい。



熊野古道散策会



熊野駅伝へ参加



地引網大会



クリスマスコンサート

宿泊施設

医師宿舎

※研修開始2週間前までに、来院日時の予定や質問等を下記まで電話かメールにて連絡して下さい。

【連絡先】

紀南病院 総務課 清水・更谷

メール：shomu2@kinan-hp-mie.jp

電話：05979-2-1333

鳥羽市立神島診療所（離島診療所）

研修施設

鳥羽市立神島診療所

研修期間

2日間

研修目的

- 1) 地域を知る
- 2) 地域に生きる人を知る
- 3) 地域の医療を知る

研修方法

上記を達成するために、以下に掲げる項目について研修期間内にできるだけたくさん習得できるようにする。

- 1) 地域を知るためには？
 - (1) 神島の地理・地形・へき地の程度を知る
 - ・ 神島の地図から、島の大きさ地形を理解する
 - ・ 神島内を隈無く歩き、島の大きさ地形を実感する
 - ・ 市営定期船に乗ることによって、神島のへき地の程度（離島）を実感する
 - (2) 神島の産業（漁業）を知る
 - ・ 毎日行われているせり（市場）を見学して、漁獲内容を知る
 - ・ 漁船を見学して、漁の方法・内容を理解する
 - ・ 陸上での作業（網の修復・次の日の準備）を見て、その内容を理解する
 - ・ 漁師の人達と話をし、漁業を理解する
 - (3) 神島の気候を知る
 - ・ 日々の天気図を見て天候の変化を理解し感じとる
 - ・ 天候と漁業の関係を理解する
 - (4) 神島の歴史を知る
 - ・ 神島の祭について参考文献から学ぶ
 - ・ 神島について記述された書籍を読む

2) 地域に住む人達を知るためには？

できるだけたくさんの島の住人と話をする

- ・ 診療所の待合室で患者さんと話をする
- ・ 町中をできるだけたくさん歩き回って、自ら話しかける
- ・ 宿舎・昼食場所で、従業員の人達と話をする
- ・ 老人会に参加して、老人達の話聞く

3) 地域での医療を知るためには？

(1) 診療所での診察を見学・実習する

- ・ 医師の診療を見学して、一人ひとりの患者さんを理解する
- ・ カルテを読んで診療内容を理解する
- ・ 診療所の設備とその必要性を理解する
- ・ 興味ある診療機器を使ってみる
- ・ 待合室で患者さんと話をし、その背景を知る
- ・ 問診、聴診、触診などの診療手技を適宜実習する
- ・ 超音波診断、単純X線撮影、上部消化管内視鏡、耳鏡などを適宜実習する

(2) 往診に同行する＊

(3) 救急患者搬送があれば、船・救急車に乗り搬送先まで同行する＊

(4) 学校医としての活動があれば同行して、見学・実習する＊

(5) 健康教室・大災害に備えるための研修などの保健予防活動があれば参加する＊

(6) 担当医師（指導医）から、様々な話を聞き出す

スケジュール

	午前	午後
1日目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 午前9時診療開始 ・ 健康体操（毎週月・木）参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳トレに参加 ・ 診療所での実習
2日目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療所での実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帰宅

その他

- 1) 診療所での実習時間は午前9時～午後12時、午後2時～5時とする。
- 2) 午後12時～2時は、昼食および「地域を知る」「地域に住む人達を知る」時間とする。
- 3) 診療所での実習時間には、「地域を知る」「地域に住む人達を知る」ための時間を含む。
- 4) 希望があれば月曜、木曜、金曜の夜は担当医師（指導医）との懇談ができる。但し強要はしない。
- 5) *については、期間内にそのチャンスがあれば実施する。
- 6) 診療所内にある書籍・文献については自由に閲覧できる。
- 7) 神島滞在中の外来診察は適宜、行って頂く。
- 8) 診療所内には共有できるパソコンがないため、必要な場合は持参すること。インターネット回線の利用は不可能である。
- 9) 服装は特に指定しないが、診療所内では白衣着用のほうが患者さんの理解は得やすい。
- 10) 週に1日、指導医が研修で島の外に出るためその日は各自自由にすごしてもらおう。しかし緊急があった場合は診療所の看護師と共に診療にあたってもらおう。
- 11) 地域を知る目的で、海に入りたいときにはその準備（水着など）をしてくること。
- 12) 可能であれば、三島由紀夫‘潮騒’を事前に読み、予習をしてくること。